Season4　Episode 3

Unlocking OASIS Insights: Understanding Your Audit Reports

**レポートの主な内容と重要な注意点**

* **比較分析:** レポートでは、自社の監査結果を、類似の組織や監査タイプで構成される「比較対象グループ（コホート）」と比較し、ベンチマーキングします。
* **AIによる洞察:** AI（大規模言語モデル）を活用し、不適合の内容などから改善につながる可能性のある洞察をテキストで生成します（実験的機能）。
* **各種データ:** 重大・軽微な不適合の分布や、監査に要した日数などをグラフで可視化し、業界全体の傾向と比較できます。
* **改善リソースへのリンク:** 指摘された不適合の内容に基づき、IAQGの改善ツール「AIM」や、将来的には「SCMH（サプライチェーンマネジメントハンドブック）」の関連資料へ直接リンクし、具体的な改善活動を支援します。

**【最重要】レポートをどう解釈すべきか**

* **これはサプライヤーの格付け（レーティング）ではありません。** あくまで「特定の監査」という一時点での状況を、他の類似監査と比較したものです。
* **監査には既に合格しています。** レポートが発行される時点で、監査で指摘された不適合は\*\*全てクローズ（処置完了）\*\*しており、認証は維持されています。
* スコアが低いからといって、性急な判断を下すべきではありません。複雑な組織や厳格な監査では不適合が多くなることもあり、レポートはその結果を改善の機会として活用するためにあります。

**今後の展望と関連プロジェクト**

* **レポートの継続的な強化:** 今回は最初のバージョンであり、今後は「エグゼクティブサマリーの追加」「繰り返し発生する不適合の分析」「SCMHコンテンツの統合」など、継続的な改良が計画されています。将来的には、監査前に準備として活用できる「監査前レポート」も検討されています。
* **ユーザーからのフィードバック:** IAQGは利用者からのフィードバックを積極的に求めており、初期調査では85%以上が「役に立った」と回答するなど、好意的に受け入れられています。
* **IAQGのデジタル戦略:** OASISインサイトは、IAQGが進めるデジタルイノベーションの一環であり、他にもステークホルダー向け分析基盤「IAQGインテル」や、データ連携を容易にする「IAQGデータサービス」といったプロジェクトが進行中です。

より詳細な情報やレポートの読み方については、OASISのヘルプサイト (oasis-help.iaqg.org)で確認できます。

|  |  |
| --- | --- |
| 話者 | 和訳文 |
| Susan Matson | 皆さん、こんにちは。番組へようこそ。スーザン・マクソンです。本日はOASISインサイトについてお話を伺うため、お二人のゲストをお迎えしています。IAQG（国際航空宇宙品質グループ）のデジタル担当責任者であるグレッグ・フォンテーヌ氏と、OASISの開発元であるIntact USのCEO、ジェイク・ルーウィン氏です。お二人とも、ようこそ。 |
| Jake Lewin & Greg Fontaine | こんにちは。お会いできて嬉しいです、スーザン。 |
| Susan Matson | ありがとうございます。さて、4月1日から、各組織のOASISファイルライブラリにOASISインサイトレポートが届き始めています。本日は、これらのレポートについて少し深く掘り下げていきたいと思います。リスナーの多くは既に受け取ったか、まもなく受け取ることになるでしょう。多くの方々がこのレポートが何であるかをご存知かもしれませんが、グレッグさん、ジェイクさん、皆様が抱いているであろう、より技術的、あるいはテクノロジーに関連する突っ込んだ質問について、詳しくご説明いただきたいと思います。では早速ですが、グレッグさん、まず初めにリスナーの方々へ、OASISインサイトとは何か、そしてこのレポートはいつ、誰が受け取るのかについてお話しいただけますか？ |
| Greg Fontaine | はい。OASISインサイトは、現在進行中のOASISの活動および監査プロセスの一環として生成される新しいレポートです。現行バージョンのレポートは監査の直後に生成され、「認証は維持できたか？」「監査に合格したか？」「どんな不適合(NCR)があったか？」といった単純な問いを超えて、監査に何らかの背景情報（コンテクスト）を提供することを目的としています。このレポートは、対象組織と、その組織に関連するすべての人員、例えば管理者、サプライヤーの連絡窓口、コンサルタントといった、基本的にサプライヤーの監査情報にアクセスできるすべての人々に発行され、閲覧可能になります。 |
| Susan Matson | ありがとうございます。このレポートにはいくつかのセクションがあるようですね。主要な構成要素と、各セクションが何を表しているのか教えていただけますか？ |
| Greg Fontaine | メインページは概要となっており、比較対象となるベンチマーキングコホート（比較対象グループ）の定義が記載されています。また、どの監査が対象であるかといった監査に関する情報も含まれます。監査評価があり、将来的には過去の履歴データも表示されるようになる予定です。そして、スコアリングの仕組みに沿って分類されたベンチマーキングと監査結果が示されます。 2ページ目の次のセクションは実験的なもので、監査中に検出された事項、主には不適合などに関連する内容に基づき、AIが生成したインサイトです。 次に、スコア化された情報とスコア化されていない情報に関する一連のグラフと情報があり、特定の監査コホートタイプにおけるメジャー（重大）およびマイナー（軽微）な不適合の分布などが確認できます。 そして最後に、より広範なベンチマーキングと分布図が示されます。これにより、自身の属するコホート全体の傾向として、最も一般的な不適合の分布や、監査の現地滞在日数などがどのようになっているかを把握できます。 最終的に、監査で発生した事象に基づいて利用可能なリソースを掲載しています。現時点では、監査で指摘された不適合に対するAIM（航空宇宙改善成熟度モデル）のコンテンツが含まれており、将来的にはSCMH（サプライチェーンマネジメントハンドブック）のガイダンス資料も追加される予定です。 |
| Susan Matson | 様々なツールやデータ、指標、情報が提供されているようですね。ジェイクさん、これらのインサイトで提供される多様な情報を、利用者はどのように解釈すればよいのでしょうか？ |
| Jake Lewin | ええ、それは非常に興味深い質問です。なぜなら、ここには多くのデータと情報が含まれており、後ほどお話しすることになると思いますが、今後さらに増える予定だからです。私たちの考え方としては、まず第一に、AS9100シリーズの認証を取得すること自体が非常に大きな成果であるということです。このレポートは、その成果に加えて付加的なコンテクストを提供するものです。基本的な考え方として、これは「特定の監査時点」を「類似の監査」と比較した、その瞬間における状況を示したものです。つまり、状況に依存するものなのです。その瞬間と、他の監査との比較における文脈的なものです。サプライヤー全体を格付けすることが目的ではなく、むしろその監査がどのように進み、どのような結果であったかについてのインサイトを提供するためのものです。結果を過度に深刻に捉えすぎず、しかし同時に、パフォーマンスや達成度、理解を促進するために活用することが重要と言えるでしょう。 |
| Susan Matson | それは非常に興味深い点ですね。このレポートは比較的新しいものですから、リスナーの皆さん、特に初めて接する方々に誤解がないようにしたいと思います。評価（rating）が実際のスコア（score）であると誤解している方もいらっしゃるようですが、そうではないのですね。ジェイクさん、もう少し詳しく教えていただけますか？他に私たちが誤解を解いておくべき点はありますか？ |
| Jake Lewin | ええ、これは面白い点ですよね。スコアというものがあると、私たちは条件付けられています。人生を通じてスコアや成績といったものに囲まれて生きてきましたから。ある意味、スコアは怖いものです。そして、ここでの最大の落とし穴、あるいは危険は、低いスコアを見て性急な判断を下してしまうことです。しかし、このプロセスの関係者全員が理解しておくべき重要なことがあります。いかなる種類のスコアも、他の監査との比較という文脈だけでなく、その監査で何が達成されたかという文脈の中で捉えるべきだということです。大規模で複雑な組織や、非常に厳格な監査を自ら要求している組織は、多くの不適合を指摘されるかもしれません。それ自体は、必ずしも悪いことではありません。特に、これらすべての情報が、監査が公表される結論段階で出てくるという文脈を考慮すれば尚更です。その時点までには、これらの組織は不適合を解決するために既に取り組んでいるのです。ですから、私たちが本当に求めていること、そして重要だと考えていることは、レポートがその「特定の時点」の文脈で受け取られること、そして組織が社内外で協力し、結果を過度に深刻に捉えるのではなく、むしろレポートを自社のQMS（品質マネジメントシステム）の改善、ひいてはQMSの究極の目標である納期遵守と品質の向上のために活用することです。 |
| Greg Fontaine | その点に加えて、例えば複数拠点を持つ組織の一部として行われる1日限りのサーベイランス監査（定期監査）を見ている場合、すべての監査が同じように作られているわけではない、ということを認識することが重要だと思います。監査サイクルの中で、ある部分で特定の事項がカバーされ、他の部分ではされないことがあります。その結果として生じる複雑さは、私たちが見ているこのレポートが、あくまで「ある一点」の状況を示しているに過ぎないことを意味します。これはサプライヤーの格付けではなく、監査の評価なのです。この単一のイベントを、他の類似した単一のイベントと比較していますが、それらすべてのイベントが等しく作られているわけではありません。 |
| Susan Matson | 皆で正直に認めましょう。これは、彼らが監査に無事合格した後の話だということですよね。 |
| Greg Fontaine | ええ、その通りです。先ほどグレッグが指摘したように、彼らは認証を取得したか、維持しています。発生した不適合は、このレポートが生成される前にすべてクローズされています。ですから、たとえ監査で何かが指摘されたとしても、このレポートが出てくる時点では既に解決済みです。そして、これもまた、些細なことではないのです。 |
| Susan Matson | まったくその通りです。少し話題を変えて、技術的な側面に踏み込んでみましょう。これらのレポートには、どのようなデータソースが使用され、統合されているのでしょうか？そして、レポートを受け取る側から見て、私のデータ、つまり、今レポートを受け取ったばかりのリスナーだとしたら、その私のデータはどのように使用されているのでしょうか？ |
| Greg Fontaine | OASISインサイトレポートは、世の中にあるすべての監査から得られた実際の監査結果を、AIがデータ比較することに基づいています。ただし、ご自身のレポート以外では、データは匿名化されています。つまり、ある特定の規格、特定のタイプの監査で発生した不適合の数などは、特定の監査と比較するための一般的な比較データとして使用されます。個別のデータセットは、その組織のために生成されたレポート内でのみ利用可能であり、その組織自身のものです。データは匿名化されていますが、その組織が受け取る実際の監査レポートでは、自分たちの結果を見ることができます。 |
| Susan Matson | ジェイクさん、これらのレポートが作成される過程を説明してください。データはどのように収集、処理され、提示されるのでしょうか？私が監査を受け、そして今レポートを手にしている。その間には何が起こっているのですか？ |
| Jake Lewin | そこに至るまでには、「オートマジック（automagic）」と呼んでいるシステムが働いています。すべてが自動的かつ魔法のように行われるのです。実際には、すべての基礎となっているのは、これまでに行われたすべての監査結果という基本データセットです。特定の規格において、監査が行われるたびに、進行中のデータセットが構築されていきます。監査結果が公表されると、システムが処理ツールに「監査が公表されたので、確認してください」と伝えます。ツールはそれを受け取り、「OK、これはどんな種類の監査か？期間は？どの類似監査グループに分類されるか？」を判断します。そしてそれを分析し、データセットを構築し、スコアを付け、その記録を後々のために保存します。そして、「よし、レポートを作成しよう。グラフもたくさん作ろう」となり、レポートをレンダリングして、システムを通じてサプライヤーに送り返します。これらすべてを全体として見ると、まさに「オートマジック」です。 |
| Susan Matson | オートマジック、なるほど。レポートを分析し要約するために、特定の種類のモデルが使われているのですか？人々が価値を見出している、非常に中身の濃い情報が出てきているようですから。 |
| Jake Lewin | ええ、2つのものが同時に動いていると考えています。1つ目は、多かれ少なかれ、ストレートなデータサイエンスのアルゴリズム群です。これは、比較やベンチマーキングなどを行い、比較データを提供するためのデータサイエンスの仕事です。そしてもう一つがLLM、つまり大規模言語モデルです。これは基本的なAIで、ベンチマーキング以外の、より分析的な部分、例えば2ページ目に表示されるような比較の一部を行っています。ですから、ストレートな、ほとんど統計学に近いものと、大規模言語モデルの両方です。 |
| Susan Matson | それらすべての情報を踏まえて、グレッグさん、組織はこれらのレポートをどのように活用して、改善が必要な領域や、非常に良いシステムをさらに良くするための改善機会を特定できるでしょうか？ |
| Greg Fontaine | そうですね。まず明確にしたいのは、これが最初のバージョンであり、今後改善されていくということです。私たちはさらにいくつかの改良版を計画していますが、要は、このOASISインサイトの最初のバージョンの真の目的は、監査にコンテクスト（背景情報）を与えることでした。現状の監査では、監査が終わると上司が「どうだった？合格したか？認証は維持できたか？不適合は何件あった？」と聞くだけです。それらの質問には答えられますが、航空宇宙産業全体の枠組みやIAQG規格の中で、それが何を意味し、自分たちがどうだったのかを全く把握できません。ですから、そのコンテクスト自体が非常に大きな価値を持ちます。このレポートを見れば、客観的に自分のこのタイプの監査が、他の同タイプの監査と比べてどうだったかを「ある時点」で理解できるだけでなく、生成される詳細なグラフや分布図によって、「指摘された不適合は、最も一般的な箇所で発生したのか、それとも珍しい箇所だったのか？」「他の組織もここでつまずくのか、それともそうでもないのか？」といったことが分かります。 レポートが提供する客観的なコンテクストと、典型的な不適合領域で発生した主要な問題をリストアップするAI生成の結果に加えて、IAQGのリソースへのリンクも提供されます。現時点では、先ほど申し上げたようにAIMが含まれていますが、将来的にはSCMHも追加する予定です。つまり、自分の監査がどうだったかというコンテクストを得られるだけでなく、監査で発生した事象に特化して、改善に使えるリソースも提供されるのです。ご理解いただけたでしょうか？ |
| Susan Matson | はい、よく分かりました。それはまさに、私が頭の中にあった「このレポートの利点」という質問につながりますね。レポートを深く読み解けば、非常に大きなメリットがあるということですね。そして先ほどおっしゃったように、今後さらに多くの機能が追加されると。ジェイクさん、組織がこのレポートを受け取り始めてから、まだ1ヶ月余りですよね。まだ多くはないかもしれませんが、開発者の視点から、ベストプラクティスのようなものが見えてきているのではないでしょうか。これらのレポートを、例えば事業計画などに統合するためのベストプラクティスはありますか？ |
| Jake Lewin | ええ、ありますね。どの組織においても、計画に統合するためには、まずレポートを受け取り、深呼吸して、ただ最初のページを見るだけでなく、時間をかけて「これは何を意味するのか？私たちの機会はどこにあるのか？」と考えることに尽きると思います。例えば、非常に珍しい不適合の指摘があったとします。それは、「なぜここでそれが起きたのか？」を考える良い機会です。 そして、グレッグが言ったことを改めて強調したいのですが、そこに含まれているAIM（航空宇宙改善成熟度モデル）のコンテンツは非常に網羅的で、規格の様々な領域における組織の成熟度レベルがどのようなものかについて、非常に興味深く、深い内容が含まれています。そこには、組織が成熟度を高めるためにどうすればよいかを考える上で活用できる豊富な情報があります。しかも、それは既に問題があった領域に的を絞って提供されるのですから、非常に価値が高いです。私たちがこの仕組みで特に気に入っている点の一つは、IAQGのツールをサプライヤーが実践的に活用できるようにしていることです。 |
| Susan Matson | お二人とも別々の機会におっしゃいましたが、改めて強調させてください。AIM（航空宇宙改善maturityモデル）は、レポートの一部に統合されているのですね？つまり、利用者はすぐにその利点を活用できると。しかし、話はそこで終わりではないですよね？グレッグさん、今後の開発について、例えば組織が持つ特定のニーズに合わせてOASISインサイトをカスタマイズしたり調整したりするオプションなどはありますか？それは既に利用可能なのでしょうか、それとも将来的に提供されるのでしょうか？その点について少しお話しいただけますか？ |
| Greg Fontaine | 我々は一連の改良を計画していますが、そのいずれもが、いわゆる組織に特化した「カスタマイズ」や「調整」といったものになるとは考えていません。しかし、多くの人々がこれをどのように使いたいかについて、たくさんのフィードバックをいただいています。その一つとして、多くの拠点を持つ組織向けに、全拠点の最新の監査結果をまとめて見られる集約レポートのような機能に関心が寄せられています。また、総会やいくつかの会議では、これをより大きなサプライチェーンなどに組み込む方法についても多くの関心が示されました。これらはすべて議論の段階です。 我々が計画している将来の開発は、このレポート自体の強化により焦点を当てています。今回は最初の試みでした。現在、私たちはメジャーとマイナーという分類で、すべての不適合をある意味同等にカウントしていますが、すべての不適合が等価ではないことも承知しています。書類上の問題もあれば、実際の製造品質や有形製品に直接影響を与えるものもあります。すべてが重要であることに変わりはありませんが、すべてが等しく重要だと言うつもりはありません。ですから、これを改善するために多くのことに取り組んでいくつもりです。 フィードバックも求めています。このレポートを受け取るすべての方々、つまり今年既に監査を受けた方は全員受け取っていますし、まだ監査が公表されていない方も今年中に受け取ることになりますが、その方々から「何が見たいか」「何が役立ったか」といったフィードバックが欲しいのです。既に多くのフィードバックをいただいており、詳細は省きますが、調査に回答いただいた何百、何千もの方々のうち、85%以上が「役に立った」と回答し、40%以上が「非常に役に立った」と回答しています。ですから、これは非常に好意的に受け入れられていると思いますし、そのことが、私たちがこれを改善し続け、業界の皆様にとって役立つ方法を拡大していく励みになります。 |
| Susan Matson | 概要を説明いただき、ありがとうございます。ジェイクさん、続けて伺います。具体的な機能強化に関して、近いうちに予定されていることがあるはずですね。私たちが心に留めておくべき将来のリリースはありますか？ |
| Jake Lewin | ええ、もちろんです。現在、約3つの主要な改良版のリリースと、もう一つ別のレポートの可能性を計画しています。各改良版では、一連の改善とレポート内容の深化をまとめて行う予定です。 それらの改良で我々が取り組んでいることとしては、エグゼクティブサマリー（経営層向け要約）の追加や、例えばグラフを平易な言葉でユーザーのために解釈するといった、AIによる分析とコンテンツの追加の可能性を検討しています。そういったものを増やしていく予定です。 時間が経ち、追加データが収集されるにつれて、繰り返される不適合の発生状況に関するより詳細な分析も可能になります。これは現在収集中のデータで、まだスコアリングには反映されていません。同様に、AIMが既にあるように、SCMH（サプライチェーンマネジメントハンドブック）のコンテンツを統合する計画もあります。 さらに、分析レポートを受け取って、より詳細なグラフデータに深く踏み込みたい方々のために、追加のグラフやクロス集計を提供する計画も検討しています。これらすべてが、連続した改良版で計画されています。 それに加えて、現在、監査前にサプライヤーが準備のために受け取れるような「監査前レポート」の内容と有用性の可能性について調査しています。例えば、自社のような組織に影響を与えうる領域を特定するのに役立つかもしれません。最終的には、現在よりもさらに興味深く大規模な、非常に詳細な「監査後レポート」と、「監査前レポート」を提供できるような状態を目指しています。そして、IAQGが「一度設定したら終わり」というアプローチではなく、長期的な未来を見据えてこれを計画していることに、敬意を表したいと思います。これはまさに、旅の一部なのです。 |
| Susan Matson | まったくその通りですね。常に進化し続けている、と。インサイトだけでなく、すべてのデジタルイノベーションによる機能強化がそうですね。インサイトはその一つに過ぎませんから。グレッグさん、ここで伺わないわけにはいきません。IAQGのデジタル分野における、その「デジタルイノベーション」という包括的な取り組みの下で行われている、他の開発についてもお話しいただけますか？ |
| Greg Fontaine | はい。4月から総会にかけては、IAQGにおけるデジタルイノベーションにとって大きな月でした。3つの初期プロジェクトが立ち上がり、完了しました。1つはまだ完全には展開されていませんが、機能はしていて、あとはその共有をどう有効にするかを検討している段階です。それについては、将来のポッドキャストで詳しくお話しすることになるでしょう。 2024年のデジタルイノベーションで我々が注力した3つの分野は、まず明らかにOASISインサイトが一つ。次に「IAQGインテル」と呼んでいるもので、これはビジネスアナリティクス・インテリジェンスプラットフォームです。IAQGがこれまで蓄積してきた全データを活用し、航空宇宙コミュニティの様々なステークホルダーがそのデータにアクセスし、分析し、有用なものとして活用しやすくするものです。そして「IAQGデータサービス」です。 これらはすべて、ジェイクが言っていたように、何度も改良を重ねていきます。インサイトも今年の間に改良を重ねていきます。データサービスは、最初は単純なデータフィードとして始まりましたが、将来的には人々がより対話的に利用できるAPIのようなオプションへと進化していきます。 私たちが基本的にやろうとしていることは、ビジネスインテリジェンスサービスを通じてIAQGが分析に必要な基盤データにアクセスしやすくするだけでなく、多くの業界が依存している検索・追跡（Search and Track）機能にあるデータを、データフィードを通じて提供することです。これにより、手動で検索する代わりに、プログラムで自社のシステムにデータを取り込みたい場合に、それが可能になります。つまり、ステークホルダーに公開可能なデータをより良く提供し、公開できないデータはスキーム自体の改善に活用し、そしてOASISインサイトを通じて、認証組織自身に監査プロセスから有益なコンテクストを得てもらう、ということを目指しています。 |
| Susan Matson | 2025年は「データ」と「デジタル」が2つのキーワードになりそうですね。本当にそうなることを願っています。素晴らしいですね。さて、ジェイクさん、リスナーの皆さんに向けて。レポートに含まれる内容や読み方についてはお話しいただきましたが、このポッドキャストを聴くだけでなく、受け取ったレポートを本格的に読み解く前に、何か資料を読んでおきたいという方々のためのガイダンス資料があるはずですね。どこでその情報を入手できるか教えていただけますか？ |
| Jake Lewin | はい、喜んで。OASIS自体のランディングページと、すべてのレポート上に、専用のOASISインサイトエリアに直接つながるサービスデスクへのリンクがあります。その中には、コンテンツの定義、それがどのようにして作成され、どのように計算されるかをセクションごとに解説した資料があります。この資料ができたことを非常に嬉しく思っています。なぜなら、その背後にある計算式を分解し、リバースエンジニアリングすることで、ユーザー自身がスコアがどのように生成されるかを理解できるようにしているからです。スコアがどのように算出されるかを示す、完全に透明なグラフの例なども掲載されています。これは非常に健全なことだと思います。なぜなら、それが謎ではなくなり、皆が同じ土俵に立つ助けとなるからです。その資料はサービスデスクにあり、改良が行われるたびに更新され続けます。 |
| Susan Matson | ありがとうございます。皆さん、本日はこれでお時間となりました。お二人とも、ご参加いただき、そしてリスナーがOASISインサイトレポートをより深く理解する手助けをしていただき、本当にありがとうございました。 |
| Greg Fontaine and Jake Lewin | どういたしまして。ええ、光栄です。 |
| Susan Matson | 念のためですが、今ジェイクさんがガイダンス資料がどこにあるか教えてくれましたが、それらはすべてナレッジベース、OASISナレッジベースにも掲載されています。アクセスするには、oasis-help.iaqg.org をご覧ください。お二人とも、今後のご成功をお祈りしています。今年の後半に向けて、さらに多くのことを実現するために、まだまだ本格的に取り組んでいらっしゃるようですね。ありがとうございました。また近いうちにお話が聞けるのを楽しみにしています。スーザン・マクソンでした。IAQGクオリティ・ホライゾンをお聴きいただきありがとうございました。次回まで、ご安全に。 |